

A：本日の研修で印象に残ったこと・内容を記入ください。

1 子どもへの対応は「丁寧な説明」と「知識」が必要

- ・自閉症の子どもには嘘ではなく、きちんと説明することの重要性を学んだ。
- ・特性のある子どもには、手間を惜しまず、丁寧に向き合う姿勢が求められることが分かった。

2 「人は違っていい」「特性は治すものではなく付き合うもの」

- ・多様性を認めることの大切さが強調されており、特性を「治す」ではなく「理解し、共に過ごす」姿勢が大切だという話が印象的でした。
- ・「落ち着きがないと言われてしまう子ども」など、ラベルではなく背景にある特性を理解することが大切だと学んだ。

3 子ども中心主義の保育の重要性

- ・保育は大人の都合ではなく、子どもを中心に考えるべきという考え方が再確認されました。
- ・保護者や担任の思いとの間で迷いがあっても、「子ども中心」という軸を持つことが支援の基本になることを学んだ。

4 子どもの自発性を尊重する保育のあり方

- ・「強要せず誘惑する」「自発的な行動を大切にする」など、子どもが自ら動きたくなる環境づくりが重要だと再確認した。
- ・食事や遊び、音楽などの場面で、保育者の思いと子どもの感じ方にズレがあることに気付かされた。

5 特性と環境の関係性

- ・特性のある子どもも、環境によって行動が変わることがあることを学んだ。
- ・周囲の配慮や、子どもが「楽しい」と感じることで、学びにつながるという具体的な事例が分かりやすかった。

B：本日の学びや気づきを生かし今後どのように取り組もうと思われませんか。

1 子ども中心の保育の実践

- ・子どもが笑顔で過ごせることを目指し、「子どもの目線」で保育を考える姿勢を大切にしたい。
- ・子どもが「やってみたい」と思えるような支援を心がける。

2 子どもの理解を深めることの重要性

- ・子ども一人一人の特性や困り感をしっかり理解し、寄り添った対応をしていく。
- ・加配として関わる子どもに対して、より丁寧に寄り添い、楽しく園生活を送れるよう支援する。

3 保育の質向上に向けた職場での共有

- ・特性のある子どもへの対応について、学びを職場に持ち帰り、保育士同士で共有・協議することで、より良い保育を目指す。

4 保護者との連携と支援

- ・保護者からの相談に対して、今回の学びを生かし、発達の違いを受け入れた上で、子どもが過ごしやすい環境づくりを提案していく。

5 保育の振り返りと改善への意識

- ・「よかれと思っていること」が子どもにとって本当に良いかを見直し、保育者同士で話し合いながら改善していく。
- ・周囲と同じであることにとらわれず、自園の保育を振り返り、独自の良さを見つけていく。
- ・食育など日常の取組も、子どもの様子を見ながら長い目で支援していく。